令和3年度 学校評価総括表

奈良県立香芝高等学校

		総合評価
学校運営方針	本校の教育は、「元気いっぱい 一歩前へ」をスローガンに、「夢に挑戦」を合言葉とし、「明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒」の育成を目指し、「和敬・創造・錬磨」の校訓の精神に基づき、生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力のある学校作りを行うために、教職員が一丸となって教育活動に取り組む。 「和敬」・・・個人の尊厳を重んじ、礼節を尊び、常に和敬の心をもって自他の向上に努める人間を育てる。 「創造」・・・学業に励み、真理を希求し、勤労と責任を重んじ、日々たゆまず努力し、新たな文化の創造に努める人間を育てる。 「錬磨」・・・常に心身の錬磨に励み、高い知性と健全な身体を培い、強固な意志とたくましい実践力をもった人間を育てる。	B
目指す生徒像	明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒	

令和2年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的方策	自己評価結果※	
○ 観点別評価の実施や新たに設置した機器の活用によって、各教科で授業改善・工夫等の取組が進んだ。今後、さらに指導と評価の一体化や情報活用能力の向上を目指した取組を行っていく。 ○ 基本的な生活習慣を身につけ、規律ある学校生活を送ることができていると自覚する生徒がほとんどであり、今後も、きめの細かい指導を継続する。 ○ 部活動や学校行事への生徒の積極的な参加が見られた。今後も、自主的・自立的な活動意欲を高めたい。	【1】 個性・能力・可能性を伸ばすキャリア教育の推進	① 主体的・対話的で深い学びの実現を図りながら、確かな学力を育成する。また、シラバスの活用による計画的な学習指導により、家庭学習の定着を図る。	B	B
		② 主体的な進路選択に向けて、学ぶこと・働くことの意義を理解させる。また、学校行事や特別活動、総合的な探究の時間の中に、キャリアの視点を取り入れ具体的な進路選択につなげる。	B	
	【2】 自他の生命を尊重する心の育成と、規範意識の向上	① 爽やかな挨拶とマナーの向上、美しい制服の着こなしを定着させる。	A	A
		② ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を身に付け、社会の一員として、社会に貢献する意欲と責任ある態度を育成する。	A	
	【3】 たくましい心身の育成	① 運動に主体的に取り組む姿勢と、自らの健康の保持増進への実践力を育成する。	B	B
		② スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。	B	
	【4】 教職員の協力による教育力の向上と働き方改革の推進	① 観点別評価の充実を図り、教育における情報活用能力の向上を推進する。	A	B
		② 教職員の業務の適正化、効率化に取り組む。	B	

分野	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果 ※		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者による評価
学習と主体的な行動	観点別評価の充実	観点別評価規準表を作成し、指導と評価の一体化を図り、評価結果を指導に生かす。	保護者アンケートの「学習指導に熱心に取り組んでいる」で、肯定的な意見8割を目指す。	A	B	アンケート結果は80.0%であり、目標を達成した。	結果に満足せず、更なる研修・研究の充実に努める。	主体的・教科横断的な活動がしやすい表現探究コースでは、コロナ禍終息後も、同時双方向型のオンライン授業を組み合わせた教育活動の展開を期待したい。 コロナ禍において制約が多い中であったが、体育大会を実施できたことは、大変よかった。
	思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善	新テストに対応するため、学力の三要素を踏まえた授業の展開を目指す。	生徒アンケートの「授業に対する充実感」で、肯定的な意見8割を目指す。	B		アンケート結果は1年64.5%、2年67.4%、3年61.2%、全体で64.4%であり、前年度を3%ほど上回った。	3年の数値が一番低いのが気になる点である。生徒の実情・進路等も考慮しながら、授業の改善に努める。	
	集団行動の意義を理解し、実践するとともに、健康・安全に留意し、主体的に行動することができる生徒の育成	学校生活や社会生活において集団の中で健康・安全に留意し、秩序正しく主体的に行動できるよう指導する。また、体育大会の計画、運営、実施に生徒が主体的に関わるよう働きかける。	健康診断後に受診を指示された生徒の、受診率を前年度より1割増を目指す。体育大会後にアンケートを実施する。その中で、計画、運営、実施のいずれかに、主体的に行動できたと回答する生徒9割以上を目指す。	B		体育大会を本校で初めて橿原公苑陸上競技場で行った。このことにより密を避けながら3学年一斉に行うことができた。生徒アンケートでも95%が体育大会に主体的に取り組めたと答えている。健康診断後に受診を指示された生徒の受診率は、昨年同様に感染を危惧して受診をためらう生徒が多くいたため、1割増には達しなかった。	体育大会については、本年に引き続き、より生徒の意見を取り入れながら主体性をもたせて行う。受診率については感染状況を見ながら、受診の必要性を伝えながら引き続き受診の勧告をしていく。	
生活指導	基本的な生活習慣の確立	学校生活及び通学時において、制服の着こなし指導を徹底する。また、寝坊等による遅刻を少なくする。	生徒アンケートの、「身だしなみを正しくしている」と答えた生徒が9割以上である。また、全校生徒の総遅刻数が、昨年度の1割以上の減である。	B	B	1年生対象の着こなし講座はリモートで実施することができた。アンケートでも9割以上が身だしなみを正しくしていると答えている。遅刻数は、減らすことができなかった。特に3年生の2学期は昨年より増加した。	制服の更衣時期を個人で判断させ、気候に合わせた着こなし方を徹底する。	学校として規範意識の向上に取り組んでいることが、挨拶や通学マナー等から見て取れ、その成果が十分現れている。
	生徒理解と家庭との連携	欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭と協同した指導を行う。	保護者アンケートの「生活指導面で適切に指導している」で、肯定的な意見9割を目指す。	B		アンケートでは、適切に指導していると回答した保護者は9割に届かなかった。3年生の2学期の欠席・遅刻が昨年以上に目立ち、コロナ禍での受験対策で学校生活を中心とした生活習慣を整えられなかったと思われる。	昨今のコロナ禍で、欠席・遅刻をしないという意識が非常に低下している。家庭との連絡は徹底してもらっているが、有効な解決策はなく、粘り強く指導を重ねるのみである。	
	規範意識の向上	教職員からの積極的な声かけを行い、円滑なコミュニケーションを図る。また、交通ルール・マナーの遵守の指導を徹底する。	生徒アンケートの「挨拶が正しくできている」、「言葉遣いが正しくできている」、「交通ルールを守っている」と答えた生徒が3つとも9割以上である。	A		生徒アンケートでは3つとも9割以上であったが、コロナ禍で常時マスクを着用しているため、挨拶をしているのか分からず、声の小さな生徒も多い。	登校時の立哨指導等、日常での積極的な声かけを継続し、運動部員や生徒会と協力しながら、啓発運動をする。	

分野	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価 結果	※	成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者による評価
進路指導	進路目標の明確化	1年次から自己発見・進路探究の学習活動を通して、具体的な進路目標を設定させる。また進路実現に向けて、主体的に学習し、基礎学力向上のために努力する生徒を育てる。	進路に関する情報ペーパーを年間3回以上発行し、進路についての関心を高める。また、模試の前には、事前学習をすすめるような教材を配布し、模試の後は、振り返りを促す取組をする。	B	B	情報ペーパー(進路だより)については、学期毎に発行している。進路関係行事の様子の紹介や、生徒と保護者がともに進路について考えることができる話題を掲載した。模試については、事前指導学習を進める取組を行えたが、事後指導は十分にできなかった。	情報発信を継続する。模試の返却時に、本校生の課題を明確に伝え、重点的に学習すべき内容を提示するなど、事後指導に努める。	
	進路に関する情報提供の充実	各ステージにおいて必要となる進路情報を検討し、適切に提供する。	生徒アンケートの「進路に関して十分情報提供されている」の項目で、肯定的な意見9割を目指す。	B		情報提供に対する肯定的な意見は、1年80.0%、2年80.9%、3年89.4%であった。1、2年生への情報提供をより充実させる必要がある。	生徒にとって有益な情報を確実に提供するよう努める。校内での進路行事を充実させるとともに、校外での進路行事への参加を促す。	
地域及び保護者との連携	開かれた学校づくり	e-オープンスクールの遺漏のない開催、及びWebページ、各種メディア等による広報活動の充実に努める。	e-オープンスクールにおけるアンケートにおいて、「大変良かった」及び「おおむねよかった」を選択する参加者の割合が昨年度（86%）を上回る。	B	B	オープンスクールにおいてWeb申込ができるようにし、182名もの中学生・保護者が表現探究Ⅰの授業を体験した。事後アンケートでは「たいへんよかった」が72.0%、「おおむねよかった」が28.0%であった。また本校Webページの更新を促進すべく、毎月の「確認の日」を設けたが、効果は限定的であった。＊e-オープンスクールの公開は令和4年2月28日までの予定	本校Webページの更新を日常的にしてもらうため、本校の魅力発信におけるWebページの重要性について、時宜に応じ繰り返し訴えていく。	地元の中学生が是非とも進学したいと考える魅力ある学校、コースにしてもらいたい。 保護者アンケートは学校改善検討等に役立つ大切なものの1つであり、回収率向上に取り組んでもらいたい。
	学校評価の活用	各種アンケートを活用して、学校改善に役立てる。	保護者アンケートの回収率が昨年度（71.8%）を上回る。	C		保護者アンケートにおいてGoogleformによる回答もできるようにしたが、回収率は58.4%に止まった。アンケート結果は総括会議や学校評議員会にて用いられ、PDCAの「C」を担う一つとなっているため、回収率の向上が課題である。	三者面談日より前に、保護者に向けアンケートを通知・依頼する機会を設け、回答への意識向上を図る。	
	育友会との連携	育友会が作成する新聞を発行するとともに、育友会活動への参加を促進する。	各専門委員会が主催する行事への参加者数1割増を目指す。	B		新型コロナウイルスの影響で、例年の活動がかなり限定されたが、文化祭への参加や家庭教育研修を奈良県内にし、実施することができた。特に家庭教育研修においては本部役員以外の育友会役員の方々の参加があり、数値目標を超えることはできなかったが、アンケートにおいて「良かった」が8割近くあり、実施できてよかった。	育友会活動の全ての行事を実施するのは難しい状況だが、本部役員と学校の連携を深め、限られた中でもできることを工夫し、活動を継続していくことに努める。	
防災	安全教育・防災体制の充実	避難訓練及びシェイクアウトを実施し、防災教育の充実を図る。	避難訓練を年2回必ず実施するとともに、シェイクアウトも実施する。	B	B	避難訓練は新型コロナウイルス対策により実施できなかったが、防災教育ホームルームで「大地震発生」を教室で視聴し、防災に対する意識を深めることができた。またシェイクアウトは、生徒を限定して実施することができた。	命を守る教育の実践を日頃から意識し、過去の災害を風化させることなく、防災意識の向上に努める。	
特別支援教育及び人権教育	人権意識の向上	ハートフルクラブと生徒会人権委員会が中心となり、西和養護学校との交流や文化祭・人権講演会等の活動に主体的に取り組むことで、人権教育活動の推進役として全生徒の人権意識の向上に努める。	生徒アンケートの、「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が9割以上である。また、保護者のアンケートの、「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が8割以上である。	B	B	生徒アンケートの「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が79.3%であった。また、保護者アンケートの「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が77.9%であった。	生徒一人一人を大切にした、きめ細かい方策を講じながら、生徒・保護者の満足度を高める。	
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	支援を必要とする生徒の把握を行うとともに、生徒や保護者を対象としたカウンセリングを適切に実施する。	特別支援教育委員会を学期ごとに開催し、支援の必要な生徒の把握に努める。また、「教育相談だより」を学期に1回発行する。	B		生徒アンケートの「生徒の悩みや相談に応じてくれる学校」と答えた生徒が78.9%であった。	相談生徒・保護者との連携をさらに図り、教育相談やカウンセリング体制の充実を図る。	
健康管理	体力向上と健康管理	保健体育の授業や運動部活動を通して体力の向上を目指す。	新体力テストで、校内平均が5種目以上、奈良県の平均程度まで引き上げる。	B	B	男子は1年3種目、2年5種目、3年3種目が県平均以上であった。握力、上体起こしの数値が低かった。女子は1年5種目、2年6種目、3年5種目が県平均以上であった。上体起こしの数値が低かった。	授業の中で定期的に体力を高める運動を実施していく。	
	感染症予防と健康管理	感染予防を通して、健康管理に対する意識の向上を図る。	感染予防の実施状況に対するアンケートを行う。	A		アンケートの結果、96%の生徒が感染対策のルールを守っていると答えている。	自己の健康に対する意識をより高めさせ、毎朝に必ず健康観察の入力フォームに入力ができるようにする。	

分野	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果 ※		成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者による評価
情操教育	環境美化意識の向上	生徒会美化委員、美化係による、月1回の通学路清掃及び11月の校門前の落葉清掃により自主性を育てるとともに、環境美化に対する意識を向上させる。	美化委員会を年3回開催する。通学路清掃への参加徹底を図り、参加率10割を目指すとともに、クラブ員等による参加率8割以上を目指す。	A	B	美化委員会を計画通り実施し、通学路清掃の参加率で10割を達成することができた。また今年度は緑化推進運動の参加を、園芸係を中心に積極的に取り組むことができた。11月の落葉清掃では、美化委員・美化係が自主的に校内外の美化活動に参加できた。	美化委員・美化係が中心となり、清掃活動に意欲的に参加することで、本校生徒全体の環境美化への意識を高める。	地域及び保護者との連携や情操教育の中で、環境教美化意識の向上に積極的に取り組み、成果が出ている。今後も継続しての取り組みを期待したい。 読書における読解力の向上は、すべての学習における問題文の正確な読み取りなど、必ず必要なものであり、継続した指導を期待したい。
	コロナ禍における文化行事の実現	文化祭を安全・安心に実施することができるように配慮しながら立案し、実現させる。	文化祭についての事後アンケート（職員・生徒）で、肯定的な意見8割を目指す。	B		日程や場所の変更はあったものの、文化祭・芸術鑑賞会を安全に配慮しながら実施することができた。事後のアンケートでは、「実施できた」ことに満足する意見が9割を超えた。一方、ルールを徹底できなかったこと、「実施」を目標にしたため、内容の充実に時間をかけることができなかったこと、金券の未使用が多かったことが課題である。	文化祭に関して、文化委員会、生徒会の生徒たちが主体的に考え活動できるように、特別活動部と連携して環境を整えていく。展示、舞台発表、バザーの内容に関しても重なりを減らせるように調整し、内容の充実・活性化に努める。従来の形にとらわれず生徒の創造力を引き出せる企画を検討する。	
	生徒の自主的な活動の活性化	地域との連携を図り、社会参画の意識を向上させる。	周辺地域や小中学校との交流や協働行事、県主催行事について、年5回以上の参加を目指す。	A		ボランティア部によるエコバッグの地域図書館・文化会館での無償配布や赤十字への寄付、吹奏楽部による地域商業施設でのクリスマス点灯式演奏、生徒会による地域医療機関へのシトラスリボン配置・配布等、コロナ禍の制限のある中ではあったが、周辺地域との交流を予定通りの回数行うことができた。	新型コロナウイルス感染対策による制限を考慮しながら、生徒が意見や希望などを話し合う機会をできるだけ多く持ち、生徒が主体的に活動できる行事の在り方を検討する。	
		生徒会主催行事や、文化図書部との共催行事である文化祭を、生徒が主体的に活動・運営ができるように指導する。また、生徒会役員打合会を定期的にもつ。	生徒会主催行事や共催行事についてのアンケートにおいて、主体的に参加できた生徒85%以上を目指す。	B		体育大会や文化祭、球技大会などを実施することができ、アンケート結果は各学年で肯定的な意見が85%を超えた。生徒会役員打ち合わせ会を定期的に持てず、活動が十分にできない部分があった。		
	読書活動の定着と文化講座の充実	読書週間に役立つお薦め本の紹介をする。また、文化講座を年2回開催し、幅広く文化や伝統についての意識の向上を図る。	年間貸出冊数1000冊以上、文化講座の事後アンケートで肯定的な意見8割を目指す。	C		カルタ大会は中止、文化講座は2回実施できた。文化講座の事後アンケートでは、肯定的な意見は7割強だった。香芝市民図書館との共催イベント「高校生の本棚」で、1・2年の図書委員がポップや紹介文を作製し、展示することができた。また、図書だよりでお薦め本や新着図書を案内するだけでなく「出張図書館」として昇降口に試し読みのできる本棚を設置し、読書の意欲喚起に努めた。しかし、図書の貸出冊数は約820冊にとどまった。	本校生徒の約7割が月の平均読書冊数0冊という現実を踏まえ、一人あたりの読書冊数を増やせるよう、本の紹介を継続していく。生徒目線の情報を図書委員から発信ができる環境を整えるとともに、教材関連の情報発信や調べ学習での活用ができるように教科との連携を目指す。また、多くの生徒が参加し、文化、伝統、読書への関心が高まるような文化講座の内容を模索する。	
第1学年	学力の向上	確かな学力を身に付け、自己の定めた進路を実現するため、努力を続ける生徒を育てる。	予習、復習を確実にするなど、家庭での学習習慣を確立させ、家庭での学習時間1時間以上を昨年度比3割増しにする。	B	B	家庭学習の習慣を定着させるため、各教科から予習・復習の課題を計画的に出すなどの取組を進めた結果、学年後半になってようやくある程度の成果が表れた。テスト期間中の平日の家庭学習1時間以上は84%であったが、期間外の平日は23%と低くなってしまった。	年々変化する生徒の現状をよく観察し、学習指導・生徒指導両面において、旧来の指導法だけに頼るのではなく、新しい工夫が必要とされている。また、時機を得た指導で基本的生活習慣の確立、家庭学習の習慣を目指した取組を粘り強く行う。	大きな問題行動も見られず、日頃からの細やかな対応が成果に繋がっている。 表現探究コースでは特色のある教育活動が行われており、今後このコースを卒業した生徒が、社会で活躍していくことを期待している。
	規範意識の向上	基本的生活習慣を身に付け、規律を守り、集団のなかで自己の責務を果たすことのできる生徒を育てる。	各学期に1回以上の学年集会、日々のホームルーム活動や授業等、機会あるごとに注意を喚起し、規範意識の向上に努める。	B		各学期の学年集会については現状達成できていないが、各ホームルームにおいて、時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いはほぼ達成できた。時機を得た指導を心がけたが、十分に意図が伝わっていないこともあった。		
第2学年	責任ある行動をとることができる生徒の育成	適切な言葉遣い、頭髪・服装の正しいあり方、規律の順守等を適宜指導し、望ましい生活習慣を確立させ、規範意識の定着を図る。	生徒アンケートにおける規範意識に関する項目の肯定的意見の平均が8割を目指す。	B	B	規範意識に関する項目の肯定的回答の平均は9割を超えているが、日々の学校生活のなかで服装頭髪等を順守できていない者が若干見られる。	ホームルーム、授業等、折に触れて声かけ等を心がけ、改善に努める。	
	進路目標の実現のための学習の充実	進路目標を設定し、その実現のために授業と家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。	コーナス講座（進路講座）に積極的に参加させる。また、希望者受験の模試について積極的に参加させる。	B		コーナス講座の受講者はのべ57名。希望者受験の模試は20名。大学等説明会への参加希望は約100名。より積極的な参加は望まれるが、進路に対する意識も高まりつつある。		
第3学年	進路目標の実現	進路目標の実現に向けて、自ら進んで学習に取り組み、継続的に努力することができる生徒を育成する。また、最終学年として、他学年の模範となるような責任ある行動をとることができる生徒を育成する。	進路については、8割以上の生徒が第一志望の進路を実現することを目指す。	B	B	自己の進路目標の実現に向けて早くから取り組み、第一志望への合格を実現していった生徒がいた。その反面、進路目標を定めることができず、模試の受験にも消極的で、伸び悩む生徒もいた。第一志望の進路実現は、70%であった。	早期からホームルームや面談を通じて、主体的・自主的に取り組み、自己の実力を冷静に分析できる生徒の育成に努める。	

※ 自己評価結果について・・・ 評価基準　A 90%以上（十分である）　B 70%以上（ほぼ十分である）　C 50%以上（あまり十分でない）　D 50%以下（改善を要する）